

ソルガム市販品種における沖縄と熊本間での出穂迄日数の比較

○高井智之・佐々木敦司<sup>1)</sup>・徳永毅<sup>1)</sup>・上床修弘・山下浩・我有満・桂真昭・波多野哲也  
(九州沖縄農研・<sup>1)</sup>アースノート)

【目的】

日本では、ソルガムは飼料および緑肥作物として栽培され、南西諸島においても緑肥利用を目的に栽培されている。南西諸島では、家畜頭数が増加傾向にあり、ソルガムは暖地型牧草に比べて初期生育が旺盛なためサトウキビ等の休閑期間を利用した作付体系で飼料利用が期待されている。ソルガムは、短日植物のために播種時期や地域によって出穂迄日数が変化することが知られている。本研究では、沖縄におけるソルガム市販品種の出穂期を明らかにするとともに、熊本でも同様な調査を実施することで、緯度の違いによる出穂反応性についても明らかにする。

【材料および方法】

2011年は、ソルガム市販品種29点を沖縄県大宜見村と九州研(本所)で、それぞれ、6月17日および4月26日に播種した。2012年は、九州研の育成系統を含む46点を沖縄県大宜見村で5月7日および5月30日、九州研(本所)では4月24日および5月16日(21点)に播種した。出穂始を調査し、播種日からの出穂迄日数で表記した。

【結果および考察】

2011年の沖縄における出穂迄日数は、レンジで33-101日で、熊本(レンジ:70-130日)に比べて短く、とくに、一部の早生品種(晴高、ブラウントウミソルゴー、ハイスターン)で早生化が顕著であった(図1)。これは、沖縄の播種日が6月のために高温による生育の促進が考えられる。また、ハイグレイソルゴーの出穂迄日数は熊本と同程度であった。出穂迄日数では沖縄と熊本間で高い正の相関関係が認められた(図1)。

2012年の沖縄の5月7日および5月30日播種における出穂迄日数のレンジは、それぞれ、54-119日および69-111日で、後者は前者に比べてレンジが狭かった。また、前者(5月7日播種)は熊本より出穂が早い品種が多く、後者(5月30日播種)は熊本より出穂が遅い品種が多かった(図2)。また、出穂迄日数では沖縄の両播種日と熊本間で正の相関関係が認められたが、図2の散布図からも品種によって播種日と栽培地によって出穂迄日数が変化することが明らかになった。今後は、沖縄で飼料用ソルガムが栽培可能な時期を明らかにして、それに適した品種の選定と出穂反応性を明らかにしていきたい。

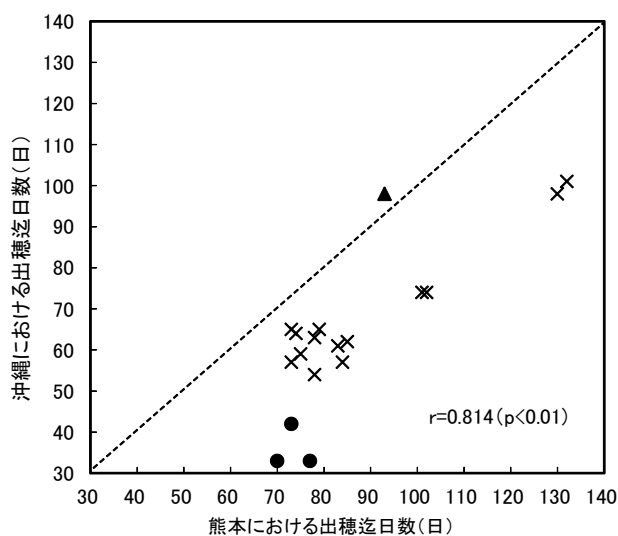


図1 ソルガムにおける沖縄と熊本での出穂迄日数の関係  
(18系統、2011年)  
▲:同一、×:沖縄でやや早生化、●:沖縄で早生化

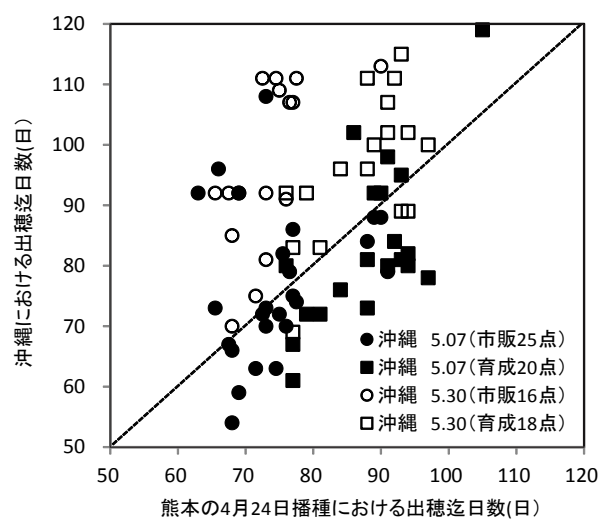


図2 2012年のソルガムにおける沖縄と熊本での出穂迄日数の関係